



オンラインシンポジウム

これからの「日本語教育」に 求められるものとは？

—世界と日本の現場から考える—

特定非営利活動法人PEACE



カルダー淑子氏

ジョンスホプキンス大学
国際問題高等大学院講師



MARIP SENG BU氏

特定非営利活動法人PEACE
理事長



加藤早苗氏

インターカルト日本語学校
校長

進行：宗田勝也（特定非営利活動法人PEACE事務局長）

世界中で日本語を学ぶ人／教える人が存在します。
それぞれの現場には、異なる課題が存在する一方、
共通する課題もあるのではないのでしょうか？
本シンポジウムでは、三人のスピーカーをお招きし、
日本におけるミャンマー難民、コミュニティが持つ
「特定のニーズ」に対応した日本語教室の実践、
米国における「継承語としての日本語」を学ぶ機会の
確立に向けた実践、そして世界各地で教える日本語教師を
育成してきた日本語学校の実践から、成果と課題を
共有していただきます。
それぞれの課題に目を凝らすことで、日本語を学ぶ意味や
可能性を参加者とともに考えます。
皆さまのご参加をお待ちしております。



2024年3月17日（日）



10:00～11:30



日本語教育関係者、教育関係者
自治体関係者、まちづくり関係者
大学生など

お申込み

<https://forms.gle/tzbdHz6vfTpBoKoe6>



文化庁 令和5年度「生活者としての外国人」のための特定のニーズに
対応した日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラム活用

登壇者・進行紹介

カルダー淑子（カルダーとしこ）

ジョンスホプキンス大学国際問題高等大学院講師、母語継承語バイリンガル教育学会海外継承日本語部会創立者・元代表。大学で日本語教師を務める傍ら、1990年代半ばから継承語教育に参加。文科省認可補習校のプリンス頓日本語学校に独自理念の継承語コースを設立。2019年の日本語教育推進法の成立に向け、世界各地の継承語家庭の声を集め、同法に継承語教育への政府支援の文言を加える運動を主導した。

MARIP SENG BU（マリップセンブ）

特定非営利活動法人PEACE理事長。ミャンマー出身。2014年より文化庁「生活者としての外国人のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム」の採択を受け、東京都新宿区でミャンマー難民、コミュニティを対象とした日本語教室を開設。新型コロナウイルス感染症の拡大を受けてオンラインを通じた学びの場を創出。令和4年度文化庁長官表彰受賞。現在、首都圏を中心に日本全国でミャンマーコミュニティの生活支援などに取り組んでいる。

加藤早苗（かとうさなえ）

インターカルト日本語学校学校長。1988年より留学生の日本語教育、インドネシア校勤務、ビジネス研修、日本語教師養成、地域の日本語教育など活動の幅を広げ、2000年より現職。文化審議会国語分科会日本語教育小委員会等委員歴任。令和元年度文化庁長官表彰受賞。現在、日本語教育振興協会理事等。インターカルト日本語学校は、東京秋葉原で50ヶ国を超える世界各国からの学生と日本語教師を目指す人の学びの場を提供している。

宗田勝也（そうだかつや）

特定非営利活動法人PEACE事務局長。2004年、「難民問題を天気予報のように」をコンセプトに情報発信を通して難民支援を行う「難民ナウ」を設立。2017年より2020年まで同志社大学客員准教授。現在、人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究員。ほかに龍谷大学、京都外国語大学、神戸親和女子大学で非常勤講師を務める。専門は強制移動研究

お問い合わせ

info@npopeacejapan.com



文化庁 令和5年度「生活者としての外国人」のための特定のニーズに対応した日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラム活用

